

教科	国語	単元名	俳句十句
----	----	-----	------

本単元で育む主な情報活用能力

B-STEP 4, I-STEP 4
L-STEP 4, Q-STEP 2

該当番号の詳細内容は
「大阪府情報活用能力
ステップシート」から確認できます。



単元でつきたい力（ステップシートの項目）

- （教科等でつきたい力）
- ・俳句に興味を持ち、詠み味わう。
 - ・主体的に俳句へ興味を持ち、自分の解釈を言葉にして発表する。（学校図書館等の活用でつきたい力）
 - ・資料を使い、「季語」「切れ字」などの言葉を探す。
 - ・他者のまとめたシートをみて、「どのようなまとめ方が見やすいのか」を自分のシートにも生かすことができる。
 - ・教科書以外の資料から興味をもった俳句を見つける。

単元における学習の展開（全6時間）（学校図書館等を活用した時間に☆印）

第1次 (1時間)	○俳句の「きまり」や「特徴」を理解することで、俳句を読み味わう土台を作る。 ・俳句の「きまり」や「特徴」を理解する。 ・教科書にある俳句を読み、どのようなイメージを持ったかを共有し合う。
第2次 (2時間)	○資料を使い、自分の力で俳句の通釈を書く。（☆） ・ワークシートを使い、「俳句十句」の「季語」「切れ字」「通釈」を、自分で調べる。 ・歳時記や俳句にまつわる図書・国語の資料集を活用し、気になった俳句や「いいな」と思ったものを紹介する。
第3次 (3時間)	○俳句のルールや特徴を理解したうえで、「おくのほそ道」での松尾芭蕉の俳句を詠み味わう。 ・松尾芭蕉が俳句に残した思いを読み取る。 ・自分で調べたことを土台として理解を深める。

本時のねらい

- ・資料を使い、自分の力で俳句の通釈を書く。

本時の展開

学習の流れ	主な学習活動と内容	学校図書館活用のポイント 及び指導上の留意点
導入 (10分)	1. 前回の復習と本日の流れの確認 ・前回の復習 ・ワークシートの説明	・国語便覧を生徒に配布する。 ・歳時記や俳句にまつわる図書を準備する。
展開 (37分)	2. 各自でワークシートの作成 ・紙媒体のものを使って、教科書の俳句をまとめる。 個人での作業⇒班での作業 ・資料を使うことで、視覚的に俳句を捉える。	ネット、資料を使って調べさせる。 教員の説明になりがちな部分を、生徒に調べさせることで、主体的に取り組むことができるようにする。 ・資料を使ってまとめることで、写真などから季語がどの「感覚」に訴えてきているのかを自分で考えさせる。
まとめ (3分)	3. ふりかえり ・本で行った活動めあてを達成できたかをふりかえる。 ・次回の連絡	

授業者の声～参考にしてほしいポイント～

- ・普段は「説明ばかり」になりがちな、「俳句」の授業を調べ学習にしてみた。
- ・自力で調べることで、「ここってこういう意味なのか」などの気づきや、資料などを使うことで、こういった解釈があるのかを知ることができました。
- ・教科書以外の資料を使うことで、他の句にも興味が出た生徒が大勢いた。
- ・その後行った創作俳句も調べたことが土台となっており、スムーズに作る事ができた。



図書館に準備している「国語の資料集」とICT機器を使っての調べ学習の様子